

## 学力向上に係る効果的事例

### 確かな学力の定着・向上に向けた学習活動の工夫・改善

【加須市教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 小学校、全学年、国語・算数
- 2 ねらい ドリル学習を充実させ、基礎的・基本的な学力の確実な定着が図れる学習活動の工夫・改善を進める。

### 3 取組内容

#### (1) 「ミニドリル」タイムの精選と焦点化

毎週木曜日の業前15分間を活用しての「ミニドリル」タイムにおいて、「全国学力学習状況調査」「埼玉県学習状況調査」「教育に関する3つの達成目標効果の検証」で行った国語・算数にかかわる問題の他、加須市作成の「ひとり学びノート」や東部教育事務所作成「学力向上ワークシート」を活用している。

ドリル形式で繰り返し取り組ませ、児童一人一人の学習内容の理解チェックと定着のためのフィードバックの機会を増やしている。



ひとり学びノート 小6 月 日 名前( )	
9 比べ方を考えよう	
①速さの表し方	教科書 上 P47~P53
(基本問題)	
1 次の文の( )の中にあてはまる言葉を書きましょう。	
速さ = ( ) ÷ ( )	
道のり = ( ) × ( )	
時間 = ( ) ÷ ( )	
(練習問題)	
1 次の問題に答えましょう。	
① 216kmの道のりを、5時間で走る自動車の時速を求めましょう。	
(式)	答え( )
② この自動車は分速何mか求めましょう。	
(式)	答え( )
③ この自動車は秒速何mか求めましょう。	
(式)	答え( )
2 次の問題に答えましょう。	
① 分速65mで歩く人は、40分間に何km歩きますか。	
(式)	答え( )
② 分速500mのミニバイクが、4.5km進むのにかかる時間は何分ですか。	
(式)	答え( )
自己評価	よくできた できた もうすこし 10

【ひとり学びノート・6年算数編】

#### (2) 短作文活動におけるねらいの明確化

文章表現力、主に「書くこと」に対する力の向上として、様々な体験活動等の振り返りを記す短作文活動において、書く内容や書き方のねらいを明確にした取組をしている。

先生から	なまえ											だいたい

名前											題名

#### ① 1・2年の場合 (12字×8行)

- ・どんなことをしたのかを読む人に分かるように、順序を考えて書かせる。

#### ② 3・4年の場合 (12字×10行)

- ・2つの段落で書かせる。
- ・1つ目の段落には、自分がやったことを書かせる。

- ・ 6行より多く書かせる。

- ・ 2つ目の段落には、そのやり方や自分の感想などを書かせる。
- ・ 句読点に気をつけて、8行より多く書かせる。

### ③ 5・6年の場合（12行）

- ・ 2つの段落で書かせる。
- ・ 1つ目の段落には、自分がやったことを書かせる。
- ・ 2つ目の段落には、1つ目の段落をもとに自分の感じたことや考えたこと、その感想を書かせる。
- ・ 10行より多く書かせる。

### (3) 学習活動に生かす教師の指導力向上スキル

校内研修等を活用しながら、教師自身が「全国学力学習状況調査」「埼玉県学習状況調査」「教育に関する3つの達成目標効果の検証」で行った国語・算数にかかわる問題を実際に解くとともに分析している。児童の実態と重ね合わせながら、一人一人の確実な学力の定着に必要とされる力を明確につかみ、学習指導に生かしていけるよう工夫・改善のヒントとしている。



【教師が問題に取り組む様子】



【教師相互の分析批評】

## 4 成果と課題

- (1) 学習状況調査や効果の検証等において、解答時間が十分ではないとする児童が予想以上に多い現状があったが、同じような問題に繰り返し取り組ませることで、問題を解くペースが上がり、無回答が減った。
- (2) 短作文活動では、学校生活と学習を結びつけながらの取組から、学習意欲の向上だけでなく、文章を順序よくまとめて書ける児童が増えた。
- (3) 実際の問題を教師自らが解き、分析に取り組んだことにより、日頃の学習指導への意識が変わったと同時に、今まで以上に児童の実態を明確につかんだ授業実践の工夫・改善を講じるようになった。
- (4) 確実な学力の定着を図るためには、二極化している児童の傾向をより明確に捉え、個に応じた指導のさらなる充実を図っていかなくてはならない。
- (5) 基礎的・基本的な学習の確実な定着を図るために、児童の学習習慣の確立を目指し、家庭との連携を更に強固なものとしていけるよう学習に関する情報提供を続けていく必要がある。

